

りぶら寄席



演目 **星野屋**

ほか一席

桂雀松独演会

上方の古典落語を聴く

制作協力 米朝事務所

2011年 **6月18日** **土** 開演 16:00
開場 15:30

会場 岡崎市図書館交流プラザ **Libra**ホール

出演 **桂雀松** 桂こころろ 桂雀五郎

入場料 **3,000円** (全席自由)

チケット販売開始/2011年3月26日(土)より
[チケット取扱場所]

岡崎市図書館交流プラザ 2階総合案内/TEL (0564)23-3100
電子チケットぴあ/TEL (0570)02-9999 [Pコード:410-984]
※ぴあスポット、サークルK、サンクス、セブンイレブン各店でもご購入いただけます。

※未就学児の入場はご遠慮ください。
※公演内容等が一部変更される場合がございます。
あらかじめご了承ください。
※車椅子又は階段の歩行が困難な方は開場前にご来場いただき
スタッフにご相談ください。



落語発祥の地である上方の古典落語をお届けします。
言葉も小道具も江戸落語とは違う上方落語——。
今回は、CDではなく、生のお囃子が演奏されます。
上方落語らしい華やかで濃い落語の時間をご堪能ください。

りぶら奇席

上方落語ひとくちメモ



落語の小道具といえば「扇子」や「手拭い」ですが、上方落語だけで使われる舞台の小道具があります。その代表である見台(けんたい)は、演者の前に置かれる小さな机のことで、見台の前には「膝隠(ひざかくし)」という小さなついたてが置かれます。見台の上には、「小拍子(こびょうし)」と呼ばれる小さな拍子木が乗せてあり、断の合の手や場面転換をする時などはこの小拍子で見台を叩くことで演出効果を生みます。道具以外にも、出断とは別に、断の途中で「はめもの」と言われるお囃子(三味線や太鼓など)が効果音として使われるのも上方落語の特徴です。しかし、江戸落語との一番の違いはなんといっても「上方言葉」(登場人物によって大阪・京都の言葉が使い分けられる)でしょう。上方独特の文化や人情が、明るく華やかな上方言葉でたっぷり語られる——これこそが上方落語の醍醐味です。

見台



膝隠

演目紹介



『星野屋』

他はおたのしみ

『星野屋』は古典落語の演目のひとつで、江戸時代の元禄年間(1700年頃)に刊行された『初音草大断大鑑』にすでに原話が収録されています。大店の主・星野屋平蔵と馴染みの女・お花の「狐と狸の化かし合い」のような大人のお断。



桂雀松 (かつら じゃくまつ) プロフィール

1956年5月28日兵庫県神戸市生まれ。1975年、故・桂枝雀に入門。上方落語の重鎮で人間国宝である桂米朝一門の断家として、1988年「NHK落語新人コンクール 優秀賞」、1989年「NHK演芸コンクール 新人演芸大賞」、1994年「国立演芸場花形演芸会 銀賞」、1996年「大阪舞台芸術奨励賞」、2006年「文化庁芸術祭 優秀賞」などを受賞。落語家で唯一、気象予報士の国家資格を持つ多才でユニークな実力派です。



桂こころ (かつら こころ)

1967年大阪府枚方市生まれ。
1975年、桂南光に入門。

桂雀五郎 (かつら じゃくごろう)

1977年大阪府豊中市生まれ。
2000年、桂雀三郎に入門。



桂雀松

(仲入り)

桂雀松

桂こころ

桂雀五郎

出演



岡崎市図書館交流プラザ

URL <http://www.libra.okazaki.aichi.jp/>

主催◎岡崎市

お問い合わせ◎岡崎市図書館交流プラザ

〒444-0059 岡崎市康生通西4丁目71番地

TEL 0564-23-3100

